

まちづくり町民講座（第144回）議事概要

- 1 日 時 平成27年6月30日（火）18:30～20:00
- 2 場 所 ニセコ町民センター 2階 研修室1
- 3 テーマ ニセコ町の自治創生の取組
～人口減少社会の克服に向けたアプローチ～
- 4 講演者 金井自治創生室長
- 5 意見交換 下 記

（意見1）

本日の町民講座は多くの方が参加しており、自治創生の取組について良いスタートが切れたと思う。役場職員と一般町民の比率はどのようになっているか。

（講演者コメント）

役場職員29名、一般町民28名（うち町外5名）。合計57名にも上る多数の方にお越しいただき感謝。

（意見2）

「地方創生」がオールジャパンの取組という説明があったが、ニセコは外国人観光客で賑わっているエリア。「地方創生」は、国内の取組に限定した議論をするものなのか。

（講演者コメント）

国内に取組に限定しておらず、例えば、外国人観光客の訪問を支える観光業の在り方、というような議論は考えられる。

（意見3）

ニセコにはスポーツ関連産業（スポーツ合宿の受け入れ等）のポテンシャルがあるのではないかと。冬季オリンピックの札幌招致の動きも見据えている。このようなビジネスチャンスにつながるキーワードが欲しいという移住希望者はいるはずであり、町の情報発信にも工夫の余地がある。

（意見4）

通年雇用が少ない現状は、町内には、通年ではなくポイントで働き手が欲しい人が多いことを示している。ユースホステルがあれば、若者の働き手を柔軟に確保できるし、ユースホステルで働く人の雇用も創出にもつながる。

（講演者コメント）

若者の交流人口の増加にもつながるところは、地方創生が目指している趣旨にも沿っ

ている。

(意見5)

宿泊というスタイルにこだわらず、空いているホテルを転々として、旅をしながらアルバイトするようなスタイルの若者もいる。

(講演者コメント)

若者のニーズは多種多様と考えられ、まずはニーズを的確に把握することが重要。

(意見6)

「環境モデル都市」であることはニセコ町の特徴。総合計画の基本理念も「環境創造都市ニセコ」。環境はニセコ町の自治創生でもポイントになるのではないかと。学生時代に東京に住み、ニセコ町に戻ってきたとき、ニセコ町の景観の素晴らしさを改めて実感した。他の移住者にも、ニセコ町の印象を教えてもらいたい。

(意見7)

生まれは東京で、今はニセコ町に住んでいる。ニセコ町に住んだのは、自然の豊かさ(雪)がきっかけ。実際に生活してみると、雪とは密接な関わりがあり、結構大変。だがそれでも、ペット、子育て、駐車場なども総合すると、ニセコ町は東京より住みやすい。

(意見8)

本日の資料説明は移住に多く触れていたが、移住者ばかりに着目するのではなく、ニセコで生まれ育った子どもの支援についても考えるべき。

(講演者コメント)

資料説明で移住を多く例に挙げたのは、取組事例として分かりやすいため。ニセコ町の検討の方向性がすでに移住にシフトしているわけではない。

(意見9)

教育については、ニセコ町ならではの幼小中高一貫の仕組みを作ろうとしている。今の子どもには、ニセコの魅力・素晴らしさを味わってもらいたい。移住者が増加しているが、ニセコ町生まれの子どもたちも大事にしていきたい。

(意見10)

仕事については、必ずしも観光業に限らず、今はニセコ町にない仕事も含めて、柔軟な発想で考えていくべき。

(意見 1 1)

ニセコ町の環境に惹かれて移住した。ニセコ町に住みたいという友人がいるが、通年で働く場所がなくて困っている。起業向けの場所作りと金融支援のタッグで、インキュベーションマネージャーのような仕組みを作ってはどうか。

(意見 1 2)

働き手が雇用を選び好みしなければ、雇用自体は結構ある。人手不足に悩んでハローワークで働き手を探している農家は多く見られる。仕事の経験を踏まえて、縁をどうつないでいくかが課題。農業の現場はいくらでもあるので、子どもに体験させて教育に生かすのも面白い。

(意見 1 3)

6月定例議会で、これまでの地域づくりと今回の地方創生がどう異なるかという一般質問があった。地域の自立を目指すことこそ地方創生の特徴ではないかと考えている。移住については、ニセコ町の魅力に惹かれても、実際に住んでみると暮らしにくい面が見えてくる。今回の地方創生は、まさに地方のこれからについて議論する良い機会ではないか。

(講演者コメント)

地方人口ビジョン・地方版総合戦略の検討に当たっては、ニセコ町議会議員の意見も聴取・反映していく。

以上